

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	令和2年 (2020年) (7月1日現在)	令和3年 (2021年) (7月1日現在)	※ 【参考】	
		病床機能報告 (稼働病床数) A	病床機能報告 (最大使用病床数) B	増減 B-A	【参考】 平成37年 (2025年) 地域医療構想 における 必要病床数 C
中北	高度急性期	877	800	△ 77	403
	急性期	1,678	1,663	△ 15	1,353
	回復期	766	759	△ 7	1,227
	慢性期	1,460	1,396	△ 64	1,161
	計	4,781	4,618	△ 163	4,144
峡東	高度急性期	88	87	△ 1	48
	急性期	580	412	△ 168	279
	回復期	892	848	△ 44	978
	慢性期	341	368	27	419
	計	1,901	1,715	△ 186	1,724
峡南	高度急性期	0	0	0	0
	急性期	259	275	16	78
	回復期	35	38	3	102
	慢性期	141	137	△ 4	83
	計	435	450	15	263
富士・東部	高度急性期	14	14	0	84
	急性期	687	642	△ 45	318
	回復期	240	236	△ 4	259
	慢性期	87	82	△ 5	117
	計	1,028	974	△ 54	778
総計	高度急性期	979	901	△ 78	535
	急性期	3,204	2,992	△ 212	2,028
	回復期	1,933	1,881	△ 52	2,566
	慢性期	2,029	1,983	△ 46	1,780
	計	8,145	7,757	△ 388	6,909

➤ 医療機能を未選択の病床は含まず。

※ 時点の異なる病床機能報告の数値については、以下の点から、単純に比較すべき性質のものではないと考えられるため、「増減」は「参考」扱いとする。

・ 医療機能の区分の基準は定性的なものであり、あくまでも医療機関の自主的な判断によるものであること。